

学校経営について

- ・中高一貫教育校としての特色を生かすために、教育課程はもとより、6年間で付けたい力を教員間で共有し、教科等の指導方針や指導計画の作成と実践を行う。
- ・各行事やアカデミックプログラムなどとスクールポリシーを紐づけて見える化し、付けたい力を共通理解して指導に取り組む。
- ・アカデミックプログラムの効果を十分に検証し、精選を進める。

学習指導

- ・学習に困難を感じている生徒の学力補充や、逆にさらに発展的な課題に取り組みたい生徒への対応など、学習指導の個別最適化を図る。
- ・中高一貫教育校としての特色である国語、数学、英語の先取り学習については発展的な内容を含めた指導の充実を図るために、6年間を見通し、中学校3年間で付けたい力を明確にする。
- ・先進校の視察や県立中学との授業研究の交流を通じて、教員の研修と修養に励む。
- ・一人一台 GIGA 端末が活用できるよう、使用機器の改善・充実に図り、AIドリル等の導入検討を進める。また、情報モラルについての学習も進める。

生徒指導

- ・いじめの調査や面談を定期的に行い、早期に実態把握をして解決していく。また、「いじめのない集団作り」を目指し、道徳や学級活動の時間を中心にすべての生徒が安心して過ごせるあたたかい人間関係作りに取り組む。
- ・「いじめ撲滅運動」等、人権委員会などの生徒が主体となって行う取組を進める。
- ・スマートフォン等の使用についての指導を家庭、学校が協力して取り組む。警察などの関係機関と連携し、講演会等を利用し指導の機会を増やす。

進路指導

- ・キャリア教育を系統的に行い、目先の進路だけでなく、将来にわたって望ましい進路選択ができるような進路指導を行う。

特別活動等

- ・中高での生徒会活動を連携させ、自治能力の育成を図る。
- ・生徒会活動やそれに付随する委員会活動など、生徒の自主的・自治的活動によりリーダーを育てるための取組をすすめる。リーダーとしての資質を十分に持ち合わせている生徒が多いと感じることから、さらにその資質を伸長する取組を進める。
- ・学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドラインに沿った指導を行う。

学校図書館

- ・図書館環境は十分に整っているため、授業での図書館活用など、読書に興味の少ない生徒にも本に触れる機会が増えるような取り組みを進める。(押し本バトルだけにとどまらない)

保健・安全指導

- ・交通安全について指導の機会を増やし、ルールやマナーについての意識向上に努める。
- ・教員・生徒の危機管理に対する意識を高め、避難訓練の意義などを含め十分な指導を行い、より実践に即した訓練となるよう工夫する。

人権教育

- ・人権意識を高める学習指導や職員研修が充実してきた。学習したことを実践的態度につなげることができるような指導が必要である。
- ・LGBTQ 等の新たな課題に対しても研修を取り入れて、人権感覚を磨いていく。

環境教育

- ・「環境美化の日」を意識した取り組みをし、SDGsについて学ぶ機会を設け、実践的態度を養う。

その他

- ・学園祭、オープンスクールの他、保護者や学校関係者による授業参観などを積極的に行い、教育活動を公開する機会を持つ。